

瓦曾根村世襲名主中村家の歴史

- 中村家の先祖 中村一氏の弟である中村彦左衛門一栄は沼津城主。
兄の中村一氏は秀吉の重臣で駿府城主14万石、駿河国（静岡県）大名。
※駿河・・今の静岡県、ただし伊豆と遠江を除く。
家康から味方になるように働きかけられる。
このとき兄は重病、弟の彦左衛門一栄が兄に代わって取りしきっている
ので、家康は弟の彦左衛門一栄に働きかける。
慶長5年（1600）6月26日重病で起きられない兄一氏、家康と会う。
家康方につくことを約束する。
褒美として、兄一氏の嫡子（一忠 10才）に『長光の一刀』を
弟の彦左衛門一栄に、『信国の短刀』を
信国の短刀は現在、瓦曾根の中村家の家宝。
- 同年9月15日 関が原の戦い
兄の一氏は既に死亡（～院殿～大禅定門 臨濟寺に葬られる）
弟彦左衛門一栄、兄の嫡子をたてて出陣。
- 同年 手柄として、兄の嫡子には米子城主17万石、伯耆国（鳥取県）
弟彦左衛門一栄には八橋城主（要衝）、
兄の嫡子を補助する形で鳥取藩を切り盛りする。
※伯耆・・今の鳥取県、ただし因幡を除く。
- 慶長9年（1604）彦左衛門一栄、病死（～院殿～大居士）
彦左衛門一栄の嫡子、中村伊豆守、
倉吉（伯耆国）に転封。
- 慶長11年（1606）兄の嫡子（大変な秀才と言われた）、家康より
松平姓を承る。
- 慶長14年（1609）兄の嫡子（米子城主 鳥取藩主）、
突然死（～院殿～大居士）。 お家断絶。
- ? ? 中村茂左衛門一成、瓦曾根に住む。（中村家の土着）
瓦曾根の中村家の初代当主。
家康から彦左衛門一栄に承った『信国の短刀』は
瓦曾根の中村家の家宝。
鳥取中村家に伝わる系図によると、中村家は桓武平氏。
- 寛永10年（1633）初代瓦曾根当主茂左衛門一成、没。
一栄の子孫が茂左衛門。
一栄の嫡子中村伊豆守との関係は、
信国の短刀があるということから普通は嫡子となろうが、年
齡的にみると中村伊豆守の子であるとは考えにくい。
嫡子であるなら彦左衛門を名乗るであろう。
中村伊豆守の弟かもしれない。
- 以後、9代目を除いて、代々『彦左衛門』を名乗る。

延宝3年(1675)、第2代目 中村彦左衛門重保 68才で没。
 元禄年間(1688~1703)この頃、瓦曾根河岸が開設されたといわれる。
 享保8年(1723)瓦曾根河岸の差配役として中村新六の名がみられる。
 ※中村新六家・中村彦左衛門家の分家。この頃分家したと思われる。
 元文2年(1737)、第3代目 中村彦左衛門 没。
 元文5年(1740)瓦曾根村名主中村彦左衛門の名が古文書に現れる。
 延享3年(1746)、第4代目 中村彦左衛門重郷 53才で没。
 第5代目 中村彦左衛門重梁があとを継ぐ。
 明和8年(1771) 御膳細糯(ごもり)の將軍家御用達(ごようだ)を命ぜられる。
 地元では『太郎兵衛もち』と呼ばれる。
 安永3年(1774) 瓦曾根河岸は幕府公認となり、代々彦左衛門家の
 分家である中村新六が差配を勤める。
 安永5年(1776) 重梁、越谷町火災の延焼で家を焼かれた村民に部屋を
 開放し、助ける。
 天明3年(1783) 浅間山噴火による凶作に、米50俵を出して救済。
 天明4年(1784) 代々苗字帯刀御免の家格となる。
 その身一代帯刀御免、苗字は子孫まで御免が幕府より許された。
 天明6年(1786) 関東大洪水では、幕府に多額の救済資金をだす。
 天明8年(1788) 瓦曾根村の村民に代わり備蓄米をすべて負担する。
 寛政12年(1800)重梁の子、重権に五人扶持を与えられる。
 重梁は、瓦曾根中村家の中興とされる。
 その他日頃より村民の中で困窮している者の救済を行い、村民から慕
 われた。その善行の影響が子にも及ぼしている。
 子の重権、享和2年(1802)の関東洪水で、貧民救済にあたる。
 子で江戸浅草の池田屋に養子としてはいった幸次郎は寛政11年
 (1799)の浅草猿屋町火災で復興資金を出すなど、さまざまに活躍。
 重梁は、62才で隠居し、寺島村(現墨田区東向島)に移り住み、菊
 づくりで『菊の隠居』として評判となり、一方『菊のや』と号した
 会席料理屋を経営し、水戸藩主(御三家の一つ)も訪れたという。
 文化4年(1807)、第5代目 中村彦左衛門重梁 80才で没。
 天保4年(1833)、第6代目 中村彦左衛門重権 71才で没。
 嘉永3年(1850)、第7代目 中村彦左衛門一精 57才で没。
 明治14年(1881)第8代目 中村彦左衛門重致 63才で没。
 明治31年(1898)第9代目 中村信太郎 重義 51才で没。
 昭和18年(1943)第10代目 中村彦左衛門晴彦 62才で没。
 昭和44年(1969)第11代目 中村彦左衛門裕彦 58才で没。
 現第12代目当主は、中村智彦(ともひこ)氏。

昭和60年3月24日発行の『武蔵国瓦曾根村中村家の歴史 ——定住
 350年祭によせて——』(中村智彦著)を参考にして第103回研究発
 表用の資料の一つとしてまとめました。越谷市郷土研究会理事 加藤幸一